詩八重塡

詞部類

註釈訓読方

三

イ13
1133
1

イ 13
1133
1-2
イ 13
1133
巻 1

和歌八宮法三

十五 刈與の事 一丁
十六 挑灯の事 三丁
十七 返哥の事 七丁
十八 四季雜の部 あちらこちらの部 歎字
天象 ○天外 日 ○遠天 十二丁
○晴天 十一 月 ○暮天 日 ○雲間 日

○雲外　月
○連雲　月
○連日　十二丁
○連夜　月
○每夕　月
○每夜　月
○逐夜　十三丁
○絶日　月
○絶夜　月
○旅暮　月
○深夜　月
○深更　月
○曉天　十四丁
○曉更　月
○到曉　月
○水風　月
○風旅　月
○風旅　月
○月旅　十五丁
○寄月　月
○月下　月
○地儀　月
○每山　月

○群山　十六丁
○深山　月
○山中　月
○山裏　月
○遠山　月
○暮山　月
○山法　月
○山路　十七丁
○見山　月
○對己　月
○谷底　月
○洞底　月
○古溪　月
○樵路　十八丁
○冥路　月
○行路　月
○遠路　月
○居江　月
○閑樹　月
○幽居　月
○閑居　十九丁
○閑中　月
○閑庭　月
○山家　月
○山館　月
○山居　二十丁
○田家　月

○田畠 二十丁
○清氣 同 ○古門 同
○水口 同 ○故宮 二十丁 ○禁中 同
○荒庭 同 ○家々 六十丁 ○毎家 同
○誰家 六十丁 ○荒屋 同 ○荒庭 同
○荒砌 同 ○古屋 六十丁 ○古宅 同
○古砌 同 ○屋上 同 ○簷外 同
○簷下 同 ○砌下 同 ○城外 六十丁
○戸外 同 ○簾外 同 ○窓前 同
○窓中 同 ○野亭 六十丁 ○野店 同

○野外 六十丁 ○野徑 同 ○橋邊 同
○橋下 同 ○橋上 同 ○古橋 同
○海辺 六十丁 ○海上 同 ○海路 同
○湖上 同 ○池上 同 ○江上 同
○水上 六十丁 ○水路 同 ○古渡 同
○沉鴻 同 ○滝下 同 ○植物 同
○新村 六十丁 ○樹陰 同 ○樹上 同
○結茅 同 ○林下 同 ○林頭 同
○松上 六十丁 ○松下 同 ○松間 同

○竹間 平九丁
○竹亭 同
○竹裏 同
○叢間 平七丁
○叢端 同
○人傳 同
○苗人 同
○苗客 同
○行客 同
○商客 平二丁
○漁客 同
○浄侶 同
○緇素 同
○老少 同
○貴賤 同
○況士 同
○遊子 平二丁
○樵叟 同
○怪女 同
○倜儻 同
○憂喜 同
○遠情 平三丁
○遠情 同
○遠思 同
○感思 同
○旅行 同
○旅宿 平四丁

○旅泊 平四丁
○鶴巾 同
○何方 同
○遐年 同
○遐齡 平五丁
○年齡 同
○喜色 同
○嘉色 同
○歡色 同
○佳色 同
○古寺 平六丁
○蕭寺 同
○社頭 同
○藜社 同

十五 紛眼の事

紛眼の病ハ 竪山發水月又花月より行度の眼と 或ハ紛眼
といふ事ハ 眼おの素をおかし
しろきんとも病をもるし紛眼のなりハ一つの紛
病ハ黒つぶとも病をもるし目おの素氣の其紛なり
ぬへき紛とてもとすかれぬ目おの素氣
とうもてもしばらくハ紛目お

の景氣ちほうのゆ湯べうもど既なきこのハいづれ
も詞出あるべしをべて既めるも既なれ方も
山を遊び其て湯せハ其ろ山のおりてろさん弥なうで
其ものおりろさんという往もいひそやもど其山
まゐかうもものゆ山といひさやうのゆあるべう
をうしれも其の山の景とうふ其山の景況
なりてうれうせも及ぶうといひを海あうの
ほどうてどどうてさうれも及ばうなといふう
しうをしゆとうてうこの山とほじうあう

とあう海じきうろの山なうバ勿論其名と湯
もべしたうし其ゆよいひるうふうしうる名あつて
も古ものよ湯しうる湯伊ふきハ信名江そて
湯をぬとうこで山るうぶ山の景氣川なうバ川景
氣どうわと湯どべうし又祇社仏寺ふて湯をうふ
其社其寺の外他の寺社湯べうばうさうバ北所
ふううで法ふの方なるふ和の法祇とやうふ和
なり北所して其法祇の祇法とあふぎ法わううと
うしけなうもううしといひ諸教成就と行つもする

らーとよし或い北斗とも海ー又北斗とはさでさで
非ゑき非のまじろうつのひるまんなどいかはても
くくーくもど松梅非糸なれがよせて海どもいづこ
まてもは海格し又仏寺ハくい清水よまくでく
海ぜハ大悲の応めぐことあふよ次い普門品の中の要
文のんなどふて海どべー抽又人乃亭よいくりて
其座の月花の真とふよも其座あのおりろさ
とはしるとは要ともかの海山のようとふべくしば
又ありくーー接抜のんいるとくーー接抜のんあいい

狂ふくーともと接抜のんいるとくーー接抜
抜のんいるくーー月むのおりろさんとうあいその
やとものむやとの月とはしるもれが自然よあいさう
てりれいとをいづん列真のこのハとやさとはとたとも
ちくーくもともくーくもくくく

花はんとをあてはうとりとりとも御ん人とも又ハ花と
ふとひやのこのりとふかたとまつ人もあるべとりとふ
青色なれんとも人あるやとの花ハ青とふ四人さ
えびとこそやせい花もうれしと家ん人とも又月の真
ちうしんの秋月もあるべ花もなれと
むとも又なんてもむ月新もひやどうしいこぶ光そふ
たうとも御べし其ふたふうも其時の真ようさ
ぶいてれ恋の接枝とそうつをべうとと知して接枝南
度のはは宜和方のあんとをるるもいう程の秀方

なるうとうとも時宜よりもひさて不接枝なるうあるそ
俗かし古来の又逸も接枝とそうべうもとれ
く秋しのりされいなりひとの新ト人のお秋な
菊うへうるはて
うへうへ秋なれはやさうんもとちあれさ
ひうあいうふうきうとてあるうのるふいうしう
うううと又あいうとうとうとと大新程ようさうう
あまりふあふうふうふうあうをうへつて殿
殿早随とてきうあるうくうあうとと秋

又人の字まて長りて不はさ一寸程とかくとあんなはとりて
兼親書院或い兼親とそうわふて尚在なる紙す
もあるべし兼親ハ祝の紙又いわゆふれうる意和の
紙もあるべし其時の長短なる長祝の紙
なるべ行ちうもて其やどと祝ふしと祝ふんと
らし又松竹の紙なるい其やしの松竹なるして
祝のんと添べし或月花かるい其やしの月花と
ほむるんと又い四月ものうへとりうくるとも
るやもべし不論其時の長りのさはるよりそのの

とりしきふとりてんづくひあるべし尚在ハけるそ
五そ二十そ三十そのの紙紙なるべしされば其やど
のことのこハ添べるさるしかるけるそふるのの名伝又
弥山乃意也とも添べもやしつのべの其ども又
ふ大るのなるひあり兼親ハあいるつと形せる寺
へき為ふ或ハ祝の紙松竹の部とてもいるるる
もべるるとわべふあるべ尚在
あるるるはるべふ紙紙なれあいるるのんあるべ
るもも他のこのるてあいるるもるる又其の紙紙か

どもて親の手まもあるべき長屋をよそもあるべきこれ
ふいさてうんひあるべきされど他の方ハ長屋家近又
老人などあるべし長人の孫もあるべし又他なるべふ
あるべれどとて親もあいさつと孫もあるハ長屋乃
上客又ハ業教の人なとのもあるべきあるべきと
ともなる紀親もて来客の人などのさしてそ他
しくあるべるハいとまいとさきれしく
れくらめんつひ大きまた兼親者もどい
ぶ人禁忌のと亭主ぐ人さし合のとなれやう

ふもくし　○法ゝ親ある在　○人と成やと　○法
さを　○あれる在　なとやうのさぶひ教
おはしんとつくべし長ゝ亭主ぐさかくふとさ
し合のすなどあるも人ハ長さ申おさ
ふあるぐ中約をり平井河り手ハ大さうぐひのや
くくてまかやうなる物教来などやくしていて
られし　時
おされさひ人おやうめ教ようと長ゝ人ようとてうも時
長府り平の平老ぬれ親分のようひとこひてうくあ

へうも帝位年五十七なりなりあるひとはれ男のうへまきておハ
せをしくこと堂をあらはするもとおんきれば今うん
老人の事のきりて老たるどくいかるもんつうひ有七
又禁裏に云ふ行路抑といふ歌をもて云ふ
乃のへの世系の抑りし紀て表おりひのうつりてうへや
比方不吉なりとて勅勘あるもとこ人の新宅の云
なりとふ次姫いづるひなりもうのるんいあるべし
又西三条遠遠後方宮忠宮の天後なのいせ物ろ
つとを今川氏秋へをいうられし時

これとふ小考父おれて世の御土氏舟ろうん地土地
とりふうとをそうれいうり是ハ古今ゑ伊勢々士家居
ふとうれをつうり時の表傷のもう方の初し後ゑ
ゑ氏親の母北川方といふて京の伊勢伊勢守
あむもあり山て其比足ゑてれもしくれハ世の御土
乃舟なりうりうりうぐうさ合のとなりうて
一生は後悔あるうりとこ今うんうれが面しれ真
物の云ハ其方の高減名字等まて試つく
べきとこうの例ゑなりし古来の先人逆ぶ武

まして世にの人々ゝ人とつゝまざりせバ不接ぶのす
ぶうゝべし

世逸奇のゝす

猪名の奇とゝ人　猪名人の作逸奇　吾逸奇ハ
むつゝしき地ことゝふ功者人々ゝ世大祈先ゝわれゝゝ
奇の初ゝとゝゝてゝ人ゝとしゝゝ先のゝゝゝ文ゝ人の奇と
ゝて人先の奇下句と我奇のゝ句ハゝとゝて添ゝ世
上ゝとゝゝ人ゝゝゝ人ゝゝ句ハ書ゝてゝゝゝゝゝ
上句と下句ハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

なゝ人の奇なと上下の句ハ及ばゝゝゝゝ分一逸奇ハ
ゝとしゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
なゝ人ハいひゝゝれてとゝゝ逸ゝせんと為と
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
又ゝひなと世物刻ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
逸奇のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
の初ゝゝけ一ハ初ハ人ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

なわひ〜

ふくし

ふることゝあをゝ雪とゝ屋敷ゝ清ゝ花とゝ
ゝやゝふゝ老ゝたれて人ゝ
ふくしゝゝもゝ梅又色の
ゝの結ゝ合ゝけゝあゝゝ
ゝへゝもゝそれゝあゝゝ
ゝえのゝゝとゝひゝ老ゝゝ

古今

清ゝ水ゝ流ゝ

安居清水

ふくし

詠前

ゝゝゝゝ流ゝ
ゝくのゝゝくゝゝゝ
ゝへゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ

らべとなづけさんなどとなづけたるやう
ふのごろべし又雪の降たるを白のりとまねとなづけ
うしろやらの雪をはいとかねとうらとかふ
とぶとうらをのごろべしうらとかふ新たなる
雪の新法師大寺左大臣の詠まる
空太后宮大夫後撰
ふかりきとあるとふ詠也はまの雪の
ふしの
今はとなりん八法もおりわりの雪うらなりとなりて心ひやれし
後法大寺左大臣

やうのんなどへなるべしされど又とふとうらてけ
雪と点の逸雪のたとくとうへふ不あくふとうへて後と
とをくるとうるとど
又ふむとうへとふとうけうなるはまく用ひて
或ハ一句或ハ二字三字とうへてうちまれをうどく
うへをといふとうへハ
撰者古今序
ひのうらに雪降うん吉日のおもあるもあるう
強後拾上東門院
くりりなれる雪のひうるる吉日ひの間乃ふも降りうん

[illegible]

十八四季無雜のむしろひ雜もあきて出合繁字

のこり 美濃方

○天象 てんしょう 雲天象 雨 霧 霜 雪 霜 露 雲 秋 [illegible]

日 月 星

烟 雷 雹 霞 霧 雨

あめ ハ上の部ニ雲の季といふ雲天象と

[illegible] 天象 雲 [illegible]

○天象 [illegible] 天象ハ定しも雲ハ[illegible]

○天象 [illegible] 為尹

[illegible]

○遠天 [illegible]

[illegible]

○晴天 [illegible] 晴天雜のさらひしそれ[illegible]

[illegible] 晴天雜

[illegible]

○春天 [illegible]

[illegible]

[illegible] 春天ハ一ノ太上天皇

[illegible]

○雲間（うんかん）　一部ニ一月のことにしあなうら雲のうち
新古　雲間部ニ　民アロ左衛
○雲脚（うんきゃく）　一部ニあらぐひしあの字なしうしむ
無心所也百首雲部ニ　為世
○連雲（れんうん）　序一ノ連雲とかなとし連の字しつうし雲とつ
円序一連雲　為世
○雲端（うんたん）　一一のうらひし端の字なんれ雲とよあれ

一字抄　雲端岸
○連日（れんじつ）　連日ハ数日打つづきてうんぐ一ぐるる松日のことし
公経　連日雪　為世
○連歌（れんが）　一ぐるる人数をそれ作つる水積る雪の日也
後拾　連歌　一ぐるる水のもとに歌をうんぐ連日と詠おなし
後拾　連歌　人の花のちりや積るうん月のうちかなとせき
後後拾　連歌　人の袖のうちの数しも白雪の雨となるそそう所衣れ
○毎朝（まいあさ）　朝しふ部ふくまてもわる夏どいちうれ
一そそよ毎朝のんとおりひらうそべし

玉葉　毎夕寄　雅改

日をとをく旅の居とゝろふかきとてうき船うらひす電

夫歌　毎夕人忘　不復古人

ゆくひさてとまれ様の船ぬるよるの秋のねまぬりをおもき

○毎夕　毎夕へをそなまをとべし　夕夕くなといら

夫玉葉　毎夕待恋　紀伊

今こしと恋わたくに日ハ多くふんぬ月しいつ迄も毎の字乱

○毎朝　こゝも毎朝毎夕の眼目とかりしあらくとへし

玉葉　毎夜遠恋　雅経

秋ハしの松の偽とをくいとふ恋路よがゝひおれぬる

○逐日　数日おつゝをてのんし一そよひまをとへしもち

しき歌

玉葉　逐日着衣　太政大臣

ふるゝもあるれ白ひまををれて春ハ山路よりぬりそ袖

新後古　逐日清恋　成恵寺宮白河院

きのふとしふるゝハしとあもろ川あもろ川の渕と物

○逐夜　逐日はんはおれ　毎夜くゝ夜とぶろ

玉葉　逐夜清恋　雅改

恋そ夜ををくとをとをふれ夜ぶれ

○終日　終日ゝをまてのんとをよひ

新　終日月　雅親

ふるををくしひもの濡ハかをもうをりてをいる

○終夜　終夜ひ哭をまてのんとをををををを

和歌　後拾遺　後拾遺

待出て夕の雲の光さへ和ふ文切れのうわけさ

○落暮

夕のかたうとくわかれ　柏のうらとくくとうるるとい
うれと古今のみなとのこころなきこもわすし
さりなくゝ夕日なきこハんつひあるへし

○深更

れ　落暮時分　日
雲の見やたられとをとをを待ふく文れのまくられて居る歌
和の文ならんしゆらゝ和さ和文てた文て
和の文　深更

○深更

和歌　深更の東
秋風し文をハしとゝ吹しのをふかまりねゝ遠せの花
深更和歌

出家　深夜月　暁一位殿女
月ゝをゝ吹ゝ文のをとも和　月新文ゝ流らふのをと

○暁天

天の字仏れ和　天の字仏れ和　をゝむゝをあるゝ文ゝ

○暁天

暁天雲
風吹ゝして明ゝゝの光ゝつふ樹ゝ白ゆき

○暁文

文文文の字仏れ　雲ゝゝゝてゝ和叶

落合　暁文時雨　後鳥
いてやこの志ゝれいとゝ色ゝ暁もおひのねさゝハ被やゝゝ

○到暁

到の字
一ゝゝゝ

到暁

到暁　暁雨
ゝ迷ゝゝゝも千衣れ有明の月ゝゝしの新ゝゝしん

○水風　水と風とあつまる水のかゝり池などにふれけ

○風波　風の吹やうにうごくなみ

○風前　風のまへ

○風下　風のしも

○月前　月のまへ

○月下　月のしも

○月前　月のまへ

○月下　月のしも

○地儀

地儀ハ川海池沢所々江沢国なるゆゑ
ゆゑとしてもかつてのくに其季と称ス
又雲霧雨雪ハ天象のおのずからしらひて後
てもうつりかはるしるしとなす天象ハ雲ハ川より雲と後ハ雨
つゆ雨雪霜の類ハ雲ハ川より雲と後ハ雨

○毎山

○群山

○深山

○中山

○毎山 山ハ四方山の山ハ岩でさしたる山
ておけされとそれらのものとし一そのハ小さ

○えんそ　山法谷法なとわけ

千年　山裏　埋　所業

○裏　山法や本業うちの日本あつさ俗世の法なり

雪　道を信

業子宮法ハうとうの法やいを紙ときらの法

○夕　夕の山　夕日入れのうひなとをそもしへ

新勅　山花も紙

○山法　ありとも山のうちの山のうちふれなと

山法なとわけ

○山路　山法紙涼　業子

山路のくらひら人ハうちうちの山人のくらひら

ひ苔のくらひら人ハうちうちの山人のくらひら

きもたうとくらひら人ハうちうちの山人のくらひら

の郷ありとハ山路ようるとし四季新の郷ようと

かはし紙ようとうとの及ようと

○ふと山　わけ　業月　業氏

接玲

○射山　射ハうとうし山とうとうとうと

○谷底

拾玉 谷底の雪 慈鎮

○澗底

雪玉 澗底螢火 道遥院

○古渡

拾集 古渡の

○行路

○遠路

○香炉

○盃柵

○盃台

○周庭

新古今 用途秀逸 基俊

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○田屋

○田屋

[illegible]

せくるくるはの宣つつれも用ひくし田あの弘よ四宣
のんと流くるうふくくくくくは田宣よ田あはふ所

新　田宣月　寒陰

ゆくくくとはりくれも秋くくるとのくの宣
清あ　清あめんはれ情つてて彩でさちくあくう

金柴　清あ考死心大とも出幾

新　垣のわくとはくれと芳つむ白ひは我とてくてくくくう
○古つ　古はつまくはくの新の流し志磨の新なくの新の新
又新人あくと宣宣はあれていくう
をくしくくくくく

○禁中

○禁廷

○家々

○毎家

○新古今

拾遺 拾遺抄 誰か定めし

白川名七百石お茶坊主役俸
[illegible]くらあり雑色しやくしゃ[illegible]をもつて社家秋の稽ハ
[illegible]

○荒屋

[illegible]荒屋ハ荒延佐[illegible]
[illegible]

○荒庭

[illegible]荒庭ハ作[illegible]
[illegible]

○荒物

[illegible]物賣[illegible]
[illegible]

○古屋

荒屋ハ[illegible]
[illegible]

○古宅

古宅ハ[illegible]
[illegible]

○古物

古物ハ荒物[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

屋上附而此所
いうのれやのいろ酒屋やらて共云とれ
宅屋上霧 此製
しらひさし竹のえしらのうとのよ武おかとう第ト降
簷不 簷ハ新くしかの字んれ
一字物 簷の物 新ていを
此字ハ簷の物新ていをの物もてていり不自ひさかり
○簷下 是ハ下の字んれ 物也おけ
簷下 簷下ハ 新ていを
むさうのよいとへ
○柳下 下の字んれ 柳まてし柳ハ逆垂れて叶

新 柳ハ
まうのいとかく萩のもとの松ハを用ふとこと共ハ
○滅不 滅ハ
一字物 城ハ細原ハ
山滅のとうくのさ
○戸人 戸不ハ戸のかしこ戸不物なしとい
戸のかしこ
戸ハ戸のかしこ
とうれかと

○[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

○野亭

野亭はせのいとうしの[illegible]
なく京より又世第の居分きの居紙そのうりかな
[illegible]持衣[illegible]
世にてもおけ
[illegible]のうつつのうつつの居小雑いろそ小家うこうん

○野店

野亭より[illegible]
[illegible]野店[illegible]
[illegible]
[illegible]の居の[illegible]
[illegible]

○橋上

○古橋

○海邊

○海上

邊の字虚字なれども海のうへのみなもとも浦の松原を潟つれと詠てもくるしからぬ歟しかれども海といふ歌あれば浦潟潟漁火潟潟つれと詠してもよろしと詠ぶべし

上のつ

○池上

○水上

○水海

○ 植初

[illegible]のあつまりとも[illegible]のひさう

植初とそ[illegible]ろ[illegible]よハ赤芽のさ[illegible]ふとよ[illegible]て

[illegible]ろ[illegible]ぶ[illegible]植初とあ[illegible]ハ[illegible]

[illegible]芽ハ[illegible]芽の芽の芽[illegible]れ[illegible]

[illegible]て植初とあ[illegible]ハ秋の芽むのさ[illegible]ひ

[illegible]ハ[illegible]て[illegible]ハけし

○ 新樹

彰平樹 [illegible]初 兼[illegible]

[illegible]ふうひの[illegible]ふ[illegible]ほ[illegible]ふ[illegible]れ

彰[illegible]選 [illegible]植初 [illegible]

[illegible]の[illegible]入[illegible]ん[illegible]ま[illegible]

[illegible]乃 [illegible]

[illegible]

彰樹 [illegible]

○林下

新古 林下書写 八条宮家本

○林記

蜻蛉集 林家蜻蛉 道冬之後

○松上

上の句虚空とよめども松上雪なりとよめる歌ハ松のうへのんいはしらのくもゐふかきしらゆきと俗ぞ松ども松ゆきつひしらとよめれば

なをよろし

金葉 松上雪 源雅家

○松陰

松陰のんいまゐる松のうへ

○竹亭

○竹裏

○叢間

○叢端

○留客

○行客

○商客

○美人客

○貴様

又雑談のうち

○孫子

○孟子

○憂喜

○遠情

[illegible]

[illegible]

○遐年

[illegible]

[illegible]

○遐齡

[illegible]

○佳色（くしき）

○古寺（こじ）

ふるきてら

又初瀬寺ともいふ

後拾遺古寺鐘公憲法師

○蕭寺（しょうじ）

古寺ゆゑ